

中島晴子さんの談話会活動の思い出 池田博明

中島はる 本名・中島晴子。1942年東京生まれ。1966年東京芸術大学音楽学部楽理科卒業。音楽理論を柴田南雄，ピアノを谷康子，生田流箏曲を吉川富子の各氏に師事。卒論「エリック・サティ論」が「音楽芸術」1966年9月号に簡約掲載される（その後1977年に『睡れる梨へのフーガ』として東京音楽社から発刊された）。1968年創作グループ「麗会」結成。同人誌「ふなんど」発刊，1974年「グループ・インテグラル」結成。1977年東京文化会館小ホールにて「中島晴子作品集」演奏会。1992年「白い曼珠沙華」が創作邦楽コンクール優秀賞。2013年2月永眠。

作品は立原道造・中原中也の詩による歌曲，女声合唱曲「愛のバラード」「永遠の青」「和泉式部」「長崎の祈り」「ピリテイスの花」「萬葉・相聞歌」「萬葉・愛の歌 庭もほどろに」，混声合唱曲「イリス」「タンポポの道」「歌う昆虫記」，男声合唱曲「旅 山頭火」「中原中也 最晩年の三つの詩」「やさしい般若心経」，邦楽歌曲「じゃがたら文」「白い曼珠沙華」「奥のほそ道幻想」「ささがにの」「蜘蛛の子」，歌曲集「子供の歌集」「子守唄集」「百人一首より」「挽歌」「五つの恋歌」「呪文」「小倉百人一首の女流歌人たち 愛は歌となり花となり」「京都に寄せる四つの歌」「愛のバラード」「ひいらぎの花」，ピアノ曲集「魔法の小箱」「小さな青い星」「50のカノン」「白い貝のオルゴール」「クモの糸のはしご」，ピアノ曲「黒髪幻想曲」，オペレッタ「月の刀」「夜叉蜘蛛」，モノオペラ「蜘蛛の糸」「ひとり歌芝居」。

（1）会誌及び通信に記録がある中島晴子さんの観察会・合宿・蜘蛛学会大会への参加

（採集観察会の記録が出ていない年度がある）

1989年7月16日 八王子城跡 第2回採集観察会

（1989年11月26日 例会会場が，目黒区駒場住区センターになる。

目黒区住区センターは中島さんのご自宅の近くである）

1990年度 談話会に入会

1990年7月28-30日 白馬合宿 <新海明情報>

1990年8月 「談話会通信」No.70に寄稿「マレーシアでクモを」

1990年10月21日 神武寺 第3回観察採集会

1991年7月14日 巾着田 第2回採集観察会 「談話会通信」No.73

1991年7月27日-29日 裏磐梯高原 合宿

1992年5月17日 五日市横沢入 第1回採集観察会

1992年7月25日-27日 伊豆 松崎町雲見 合宿

1992年9月19日 目黒区駒場住区センター 第1回クモグッズ大会

1992年10月18日 五日市町横沢入 第3回採集観察会

1993年2月21日 五日市町横沢入 第4回採集観察会

1993年7月24日-26日 熊野市 合同合宿

1994年10月16日 飯能市西吾野・高山不動 第3回採集観察会

1995年7月9日 田無市 東大演習林田無試験場 第2回採集観察会

1997年7月25日-28日 沖縄県名護市 合宿
 1998年8月21日 滋賀県草津市 立命館大学 日本蜘蛛学会大会
 プレシンポジウム「クモの文化論」にて「クモの糸のはしご」「蜘蛛の子」演奏
 1998年7月12日 天覧山 第2回採集会
 2000年5月23日 ネコハエトリ雌の共食いを観察
 2000年7月2日 町田市小山田緑地 第2回採集観察会
 2000年10月15日 町田市小山田緑地 第3回採集観察会
 2003年5月11日 さいたま緑の博物館 第1回採集観察会
 2003年8月20日-22日 北海道上士幌町 合宿
 2003年10月 調布市 オペレッタ『夜叉蜘蛛』初演
 2005年5月15日 秦野市弘法山 第1回採集観察会 「談話会通信」115号2ページ集合写真
 2006年5月14日 八王子市片倉城跡公園 第1回採集観察会
 2006年9月30日 萱嶋泉先生一周忌記念礼拝 日野台教会 「クモの糸のはしご」演奏
 2006年6月第2日曜日 鹿児島県加治木町 加音ホールにて『夜叉蜘蛛』上演
 2009年8月22日~23日 第41回日本蜘蛛学会大会 宮城学院女子大学
 Acta arachnologica, 58(2): 116. 参加者一同写真
 2010年8月21日~22日 第42回日本蜘蛛学会大会 東京環境工科専門学校
 2012年8月25日 第44回日本蜘蛛学会大会 山形市保健センター

(2) 会誌または「遊糸」に記録された中島さんの活動記録及び随想

笹岡文雄, 1994 「かたち」としてのクモ, そしてクモはいかにしてデザインされたか.
 第一回クモグッズ大会から. Kishidaia, (66): 16-19.
 新海明, 2003. オペレッタ『夜叉蜘蛛』観覧記. 遊糸, (13): 16.
 甲野涼, 2009. 中島はるさん公演紹介. 談話会通信, (125): 5.
 中島晴子, 1990. マレーシアでクモを. 談話会通信, (70): 2.
 中島晴子, 1991. 夜との出会い. 談話会通信, (73): 4.
 中島晴子, 1991. オオヒメグモに吊るされたヤモリ. Kishidaia, (62): 20.
 中島晴子, 2000. ネコハエトリ雌の共食い. Kishidaia, (79): 74.
 中島晴子, 2003. 高橋登さんとローレツ. Kishidaia, (84): 19.
 中島晴子, 2004. オペレッタ「夜叉蜘蛛」のこと. Kishidaia, (86): 54-56.
 中島晴子, 2006. 萱嶋先生と「ヤモリの歌». Kishidaia, (89): 14.
 中島晴子, 2010. アズチグモから線虫が出た. Kishidaia, (97): 24.
 中島はる, 2010. 芥川龍之介『蜘蛛の糸』における蜘蛛学的考察. 談話会通信, (130): 11-13.
 中島はる, 2011. 蜘蛛と音楽 第1章・第2章. Kishidaia, (99): 11-19.
 中島晴子, 2011. 東京都目黒区のマルゴミグモ. Kishidaia, (99): 28.
 中島はる, 2012. 蜘蛛と音楽 第3章・第4章. Kishidaia, (100): 15-33.
 前川正博・中島晴子, 2012. デンマークの蜘蛛占い. Kishidaia, (101): 5-6.

(3) 談話会例会への参加記録 ウェブ上と「談話会通信」より拾った

途中で帰られたことがある

- 1991年4月28日 例会 「談話会通信」No.72
1991年12月1日 合同例会 「談話会通信」No.74
1992年4月26日 例会・総会 「談話会通信」No.75
1993年4月25日 例会・総会 「談話会通信」No.78
1996年12月1日 合同例会 「談話会通信」No.89
1998年4月26日 例会・総会 「談話会通信」No.93
1999年12月5日 合同例会 ウェブ1999年度記録
2002年12月1日 例会 ウェブ2002年度記録
2003年4月20日 例会・総会 「談話会通信」No.108:2ページ & ウェブ2003年度記録
2003年11月30日 例会 「談話会通信」No.110:4
2004年4月18日 例会・総会 「談話会通信」No.111:2
2005年4月17日 例会・総会 「談話会通信」No.114:2
2006年4月16日 例会・総会 「談話会通信」No.117:2
2008年4月20日 例会・総会 「談話会通信」No.123:6
2009年4月26日 例会・総会 ウェブ2009年度活動記録
2010年4月25日 例会・総会 「談話会通信」No.129:8
2011年5月8日 例会・総会 「談話会通信」No.132号
齊藤慎一郎作詞・作曲, 中島はる編曲「クモはすばらしい」歌唱指導
2012年4月29日 例会・総会 「談話会通信」No.135号:2

(4) 談話会通信及び談話会ウェブ上で案内した公演

- 1991年10月29日 牧原伸一郎&牧原くみ子 「中島はるの世界」 バリオホール
2003年10月4日 『夜叉蜘蛛』公演 調布市たづくり くすのきホール
2004年4月 ピアノ組曲『クモの糸のはしご』楽譜出版
2005年1月 女声合唱『ビリティスの花』CD
2005年11月27日 「歌う昆虫記」(混声合唱) 大阪初演
2007年5月24日 「中島はるの世界」 目黒パーシモンホール
2008年11月30日 川本伸子 「ひとり歌芝居」津田ホール
2008年12月7日 内藤千津子ソプラノリサイタル「歌う昆虫記」独唱版初演 大阪イシハラホール
2009年12月11日 新しい日本のうた「中島はる作品集」より瀬尾美智子。横浜みなとみらいホール
2010年6月13日 日本山岳会自然保護全国集会「スタディ・イン・霞ヶ浦」にて
『蜘蛛の糸』上演及び講演
2011年2月27日 「中島はるの世界」 紀尾井ホール
2011年7月5日 川本伸子 「ひとり歌芝居」津田ホール
2011年9月23日 羅漢 第2回定期演奏会 渋谷区 大和田伝承ホール

2012年1月4日 オペラ「月の刀」公演 調布市たづくり くすのきホール

2012年10月14日 羅漢 第3回定期演奏会 「中島はるの世界」 渋谷区 大和田伝承ホール

11月に関西でも関西の合唱団による「やさしい般若心経」公演があったはず

(5) 随想 再録

マレーシアでクモを 中島晴子

私ごとで恐縮ですが、単身赴任の夫が六年前からシンガポールに住んでおりまして、年に一、二度こちらから出かけるという生活が続いております。

私は子供の頃から虫やクモが好きで、でも好きだというだけで研究しようとはまではゆかなかったのですが、二、三年前に佐藤幸子さんの「クモの会」に入れていただいて、少しずつクモの名前を覚えるようになりました。昨年シンガポールの自然公園でトゲグモとオオジョロウグモに出会い、飛び上がって喜んだのですが、カメラを持っていませんでした。

昨年の秋、千葉の博物館へクモの会で行った折、浅間茂さんがキナバル国立公園へよく行かれると伺いました。マレーシアならば隣の国だから今度シンガポールへ行く時には私も行ってみようとその頃から思っていました。今回友人がシンガポールに来るといので、彼女を誘って三泊四日のサバ州へのツアーを組んでもらいました。宿はコタキナバルです。二日目にキナバル国立公園へ行きました。ガイドに付いて回るとき、テンポが早いのでクモの観察はあまりできませんでした。それにクモの会の人たちが居なくてはやはり「見れども見えず」と。つくづく感じました。キナバル山の姿はとっても素晴らしいかったですけれど。

三日目にコタキナバルからプロペラ機で三十分飛んでサンダカンへ行き、セピロックのオランウータン・サンクチュアリに行きました。そこは本当にじっとりと汗ばむジャングルで、色彩あざやかな昆虫やトカゲや猿たちに出会い、こわい思いもしました。でも、そこでももっとクモを見る目を体得してから来ればよかったと感じたのでした。夕方、サンダカンからの飛行機は夕焼け雲の上に突き出たキナバル山のすぐ脇を飛んで感動的でしたが。

池田さんに送っていただいたレポート『神奈川県高校理科部会海外研修マレーシア報告書』は行く前にも読みましたが、帰った後でまた読んでみると、一つ一つ手に取るように想像でき、楽しかったです。

サンダカンでは現地のバスと徒歩だけで行動し、いろいろな人たちに親切にされたりして、貴重な体験もしました。いつも行くシンガポールの自然は美しいけれど、管理がゆきとどいて、同じ熱帯でもジャングルの面影はありませんけれど、どこからか呼びかけてくるような小鳥の声とすさまじいスコールは、他の熱帯とまったく同じだと、当たり前みたいなことにそのあと感じいたりしています。

クモと見れば手当たり次第に写真を撮りまくったのですが、出来たのを見ると何も写っていなかったりして、がっかりです。でも、いくつかは確かに目の記憶に残っておりますので、今後の課題にはできるだろうと考えております。(1990年8月31日付 私信の一部を許可を得て転載)

「夜」との出会い 中島晴子

昨年に続き、二度目の合宿参加です。私にとっては、自然について自分がいかに貧しい知識しか持ち合わせていないかということに改めて驚く機会であると同時に、その驚きが楽しさにとって代わり、充ち足りた気分させてくれる稀有な機会とも言えます。

そして、何よりすばらしい「夜」。私たちの日常では、電気の明かりで暮らす時間帯の呼び名でしかなくなってしまった「夜」。でも、去年もそうでしたが、合宿では正真正銘の「夜」と出会えるのです。「夜」の息づかい、「夜」の匂い、「夜」の声、「夜」の色……。ひんやりとした夜の流れに自分を浸し、解いて洗うことのできる最高の時間でした。

(クモがまったく登場しない感想文ですみません) 1991年9月10日 福島県裏磐梯合宿

談話会通信 No.73 (1991/10/7), 3頁.

「昨年」は白馬合宿のこと(池田註)